

臆病で人見知りでも  
地域で有名人になれる  
5つのコツ



小野 剛良

## はじめに

ニセコに移住して十年になります。

30代の頃、地元千歳市の介護施設で勤めていました。

ニセコにいる知人の紹介が縁で今の職場にいます。

新たな地域に住み始めた時は、いつまでこの街にいるのか・・・

人見知りの激しかったあのころから見ると、

これほど長くニセコ町に住んでいる事自体が

奇跡に近いかも知れません。

自意識が高くて、根性がなくて、

適当だったあの頃の自分が嫌いでした。

そんな僕を受け入れてくれたのも町の人達であり、

仲間を大事にする意識を根付かせてくれたのも

地域の人達でした。

頼りない適当な僕にかまってくれた、第二の故郷、

ニセコ町ならびに後志地域のみなさんに

感謝を込めて文章を捧げます。

## 1、きっかけは夜遊びから。

ニセコ町に住み始めて間もなく、

スナックで飲み友達が出来ました。

些細な事でしたがバイクの話、テレビ番組の話で

意気投合しとても仲が良かった。

この友人がニセコ町商工会青年部に

在籍していることを知りました。

商工会のようなグループにも入ったことのない僕に

大変刺激的な話で何かの役に立ちたい、

そんな思いがあったのを覚えています。

ある日、別のお店で飲んでいると、

たまたまカウンターに座っていたお客さんに

話しかけられました。

話した相手は商工会青年部長さん。

会話の中で僕の知人の話をし始めました。

知人が以前から商工会青年部に入部する予定だったらしく、

僕の職場に就職が決まっていたのですが

海難事故で亡くなってしまったことが痛ましい。

彼が本来やりたかった事ができないなら、

自分かわりに青年部に入部して

知人の供養に答えてやろう

「これは何かの縁」だと思い、

入部することに決めました。

ここから、イベントを通して

様々なつながりが生まれてきました。

## 2. 臆することなくイベントに参加すればいいこともある。

商工会青年部に入って数年経過した頃、

いろんな人にイベントにお誘いで声がかかり、

極力断らないで

なんでも引き受けていこうと決めてました。

一例ですが・・・

ふるさとキャラバン実行委員会・赤坂奴会・

コロボウシとカボチャの物語・ニセコ千本桜・・・

他にもイベントではないですが、

ニセコ町のまちづくり基本条例検討委員にも

一つの経験として参加しました。

興味があればとにかくお手伝いをする。

このスタンスを続ければ、

顔を覚えてもらえる上に情報も入ってくる。

過去の自分では信じられないくらい、

度胸と積極性が育まれていき、

猛進する自分がそこにいました。

### 3. 協力し合いながらかつ交流しながらイベントをすべきだ。

商工会青年部部長が代わり

街に対する熱意が一気に加速しました。

次期部長はスポーツマンで、粋で非常に明るく

たくさんの知人に囲まれている人です。

ニセコ町の毎年恒例の七夕花火大会

(毎年8月第1週目土曜日開催) では

花火師さんと直に飲み会を開き

故郷に帰ってきた町民にいつまでも記憶に残る

花火大会にしたいと熱く語っていました。

音楽と花火の融合を演出し始めたきっかけを

作り上げたのはこのお二人の思いからではないかと。。

七夕花火大会でニセコ町単体で



楽しむのはもったいないと思いました。

というのはこの数年前に、

実は蘭越町の青年部さんとお付き合いがあり、

毎年十月に開催されているキララ共和国建国祭

(蘭越のお米をピーアールするイベント、

巨大なきのこ汁などもある)で

子供縁日コーナー担当のスタッフとして、

お手伝いをしていました。

蘭越町でも非常に人気のあるイベントで、

お米の格安販売は長蛇の列になり、

通りではサンバが踊り、

家電が当たる抽選がある盛り沢山な内容。

地域協力としてお互いの青年部員の行き来ができないか、

ニセコ町、蘭越町部長に話してみました。

後志管内町村が集まる青年部の交流は、

札幌でボーリング大会や

地区ブロックの主張大会などがあります。

となり町どうしでイベントのお手伝い

もしくは交流は一部の地域でしか行っていないそうですが、

お互いの部員がイベントを通して関係を作れないか。

僕の熱い思いは両部長に響き、

お互いのイベント交流が始まりました。

さすがとなり町どうし、お互い学校の同級生だったり

仕事で知り合いだったり、すみやかに良い交流ができました。

この関係は今でも続いています。

夏期に時間があれば、蘭越町の青年部員さんと

ニセコ町の青年部長とで

後志管内のイベントにも遊びに行こうと

泊村や古平町、共和町などなど、遊びに行きました。

お返しにニセコ町の七夕花火大会にも遊びに来て頂いてます。

#### 4. 2012年以降はインターネットのツールとリアルな付き合いが必要。

ここ数年ブログやソーシャルネットワーク

(以下SNS)が流行しています。

特にツイッターやフェイスブック、ラインなど

利用者個人が不特定多数の利用者あるいは、

「友達」に対して情報を発信する時代となってきました。

僕は最近フェイスブックを多用しています。

僕個人が関わってるイベントやおすすめのお店

場所とか食べ物など、自分の活動をアピールできるからです。

フェイスブックは画面内で

現在使用している方をチェックできる機能があるし

チャット機能(メールのやり取りのようなもの)で

その場で相手と文字で会話ができます。

お願いごとや、用事を伺うのに非常に便利です。

昨年僕はこの機能を使いイベントを初の自主開催をしました。

少人数規模でもお会いしてみた人と連絡を取り

イベント開催の招待や情報を発信して、

会場に足を運んでいただく。

フェイスブックを利用してる参加者と画面上ではなく、

現場で初顔合わせをする。

友だちになって頂いた後、情報を発信して交流する

初めてイベントを開催（はじめは飲み会）した時は

期待と不安でドキドキでした。

繰り返して開催していけば慣れてくるもの。

招待をしてフェイスブックで友だちになった方たちとは

今でも大事に交流しています。

## 5. 有名人になるコツ

地域でたくさんの知り合いをつくるコツを

経験上ですが教えます。

### 1. 地域のサークルのグループに入ること。

なんでも構いません。グループが企画するイベントに何度も参加すれば、必ず友達はできます。僕ははじめから友だちができるほど器用でありませんでした。企画の中身を覚えて、役割をもらうようになれば次回も必ずお誘いがかかります。

### 2. 仲間をつなぐキーワードとなる人を紹介してもらうこと、もしくは見つけること。

どの組織にもリーダーやイベントの人事担当がいます。積極的にその人にアプローチをして一緒に行動することが有名人になる一歩につながります。

### 3. インターネットをしている方は積極的に自分の言葉で町の情報発信をすること。

町の情報を自分の言葉で発信すると、ユーザーに対する信用が上がります。発信するときに気をつけて欲しいのは個人的な評価が批判的になりすぎると、ユーザーから不快感などの印象を与えるため、反対に離れていってしまうかもしれません。文面はバランスよく表現しましょう。

### 4. 臆病にならず、勇気を持ってイベントに参加すること。

1・とそれほど変わりません。人は必ず足踏みします。特に<sup>地</sup>域では<sup>は</sup>です。参加するときは知人からの紹介であれば、知人と親しい人を紹介してもらい、一緒になって行動すること。イベントの責任者もしくは担当者に掛け合うことです。初めての出会いは怖いかもしれませんが、諦めずに仕事に励んでください。

### 5. 面倒な役は経験上あとで助かることがある。

何事も経験と思って割り切り、役割にとりかかってください。できない部分は担当の人に、しつこいほど質問を投げかけることもしくは経験のある人と一緒にすること。一人で抱えると人に聞くことに対して恐怖感が増します。仕事が疎かになり、つ



まらないミスでも自分へのダメージが大きくなります。とにかくわからなかったら担当と話しましょう。などなど・・・これらは自分の経験上的一部分です。とにかく、地域に関わる活動に身を投げて存分に楽しんでください。たくさんの質問を投げかけていくことです。そのうち抵抗感はなくなります。イベントに参加して自分への自信を持ちましょう。

## 終わりに

縁でニセコに住むことができたこと。

ニセコ町や周辺地域の多く人に交わり、

いいも悪いも自分というものを成長させてくれました。

これからは自分がリーダーになり、

自信を育む立場にならねばと思うことが

ムクムクと沸き上がってきています。

ここまでの自分にしてくれた皆さんに「ありがとう」

この場をお借りして感謝申し上げます。

---

臆病で人見知りでも地域で有名人になれる 5つのコツ

2014年3月1日 初版発行

発行：小野剛良（ニセコ町障害者支援職員）

<http://shiribeshi393.blog91.fc2.com/>

出版：らんこし作家デビュー・プロジェクト